

[基礎科目 (物理学)]

[問題] 以下の文章を読み, 問 A ~ E に答えよ.

電荷 q の点電荷が N ($N \geq 2$) 個, 円周上に等間隔で取り付けられている半径 R , 質量 M の十分に薄い円板の古典的な運動を考えよう. 円板の中心軸を z 軸とする円筒座標系 (r, ϕ, z) を設定する (図 1, ただし \vec{e}_r , \vec{e}_ϕ , \vec{e}_z はそれぞれ r , ϕ , z 方向の単位ベクトル). 円板は z 軸に沿って傾くことなく速度 v_z で運動し, かつ中心軸の周りを角速度 ω で回転している. この系には

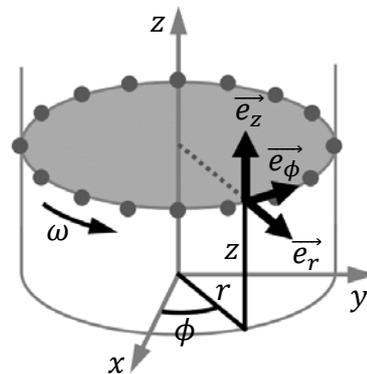


図 1 点電荷を配置した円板および設定した円筒座標系.

$$\vec{B} = k(-R\vec{e}_r + 2z\vec{e}_z) \quad (1)$$

により表される外部磁場が印加されており (k は定数), また重力は無視できるものとする.

このとき, 磁場により n 番目の点電荷に働く力 \vec{F}_n は

$$\vec{F}_n = q\vec{v}_n \times \vec{B} = qk(2\omega Rz\vec{e}_r + \boxed{\text{ア}} \cdot \vec{e}_\phi + \boxed{\text{イ}} \cdot \vec{e}_z) \quad (2)$$

により与えられる (「 \times 」はベクトル積, 「 \cdot 」は積を表す). ここで

$$\vec{v}_n = \omega R\vec{e}_\phi + v_z\vec{e}_z \quad (3)$$

は n 番目の点電荷の速度である. よって全ての点電荷による z 軸方向の合力 F_z は

$$F_z = Nqk \cdot \boxed{\text{イ}} \quad (4)$$

であり, 円板の z 方向の運動方程式は

$$\frac{d^2z}{dt^2} = \boxed{\text{ウ}} \cdot \omega \quad (5)$$

と表せる. 一方, 全ての点電荷による z 軸周りのトルクの合計 T_ϕ は

$$T_\phi = N \cdot \boxed{\text{エ}} \quad (6)$$

であることから, 円板の ϕ 方向の運動方程式は

$$\frac{d\omega}{dt} = -\frac{NqkR^2}{I} \frac{dz}{dt} \quad (7)$$

となる (I は円板の慣性モーメント).

問 A 空欄 および に入る数式を ω , R , v_z を用いて表せ. ただし, 二つの三次元ベクトル $\vec{a} = (a_1, a_2, a_3)$, $\vec{b} = (b_1, b_2, b_3)$ に対して, 両者のベクトル積は $\vec{a} \times \vec{b} = (a_2b_3 - a_3b_2, a_3b_1 - a_1b_3, a_1b_2 - a_2b_1)$ により与えられる.

問 B 空欄 に入る数式を N , q , k , R , M を用いて表せ.

問 C 空欄 に入る数式を q , k , R , v_z を用いて表せ. また, 式(7)を導出せよ.

問 D 式(5)および式(7)を初期条件

$$z(0) = 0,$$

$$\omega(0) = \omega_0,$$

$$\left. \frac{d\omega}{dt} \right|_{t=0} = 0$$

の下で連立させて解くことで, 任意の時刻 t における $\omega(t)$ および $z(t)$ を M , I , ω_0 , α を用いて表せ. ただし,

$$\alpha = \frac{NqkR^2}{\sqrt{MI}}$$

である.

問 E 円板の全運動エネルギー, すなわち z 方向と ϕ 方向の運動エネルギーの和が, 時刻 t によらず一定であることを, 問 D で得られた結果を用いて示せ.